

日本の貿易の歩み

～輸入から見る海外との関係～

平成30年度 3年1組(5) 大原彩良里
指導 法文学部人文社会学科 松井 隆幸

-はじめに-

日本とほかの国が共存するうえで切っても切れないのは「貿易」だと思う。必要な物資を共有するために、遠く離れた国から輸出したり輸入したりしているが、そもそもどのようにしてその国々との貿易をスタートさせたのか。また、どのような出来事があった、今日の貿易につながっているのかを調査する。

-研究方法-

インターネット、愛媛大学や附属高校の図書館、JETRO(日本貿易復興機構)のデータより過去から現在までの日本の貿易の状況を調べ、その背景を考察する。

-目的-

日本の輸入品に着目して、貿易先の移り変わり、その背景にある出来事を知り、これからの日本の貿易の動向を予想することを目的とする。

-日本の貿易のはじまり-

日本列島では弥生時代の後半から、北部九州と朝鮮半島南部との交易が盛んになった。当時の重要な輸入品は鉄や青銅だった。国号が日本となった後、遣唐使のような外交使節に付随して貿易が行われた。894年に遣唐使が停止されたが、平安時代後期に平氏が、遣唐使が停止されて以来の日中交渉である日宋貿易を行った。

〈日本の輸入相手国〉 *輸入金額で比較

【原油】

	1965	1970	1976	1980	1985	1995	2000	2005	2010	2015
1位	クウェート	イラン	サウジアラビア	サウジアラビア	サウジアラビア	アラブ首長国連邦	アラブ首長国連邦	サウジアラビア	サウジアラビア	サウジアラビア
2位	イラン	サウジアラビア	イラン	インドネシア	アラブ首長国連邦	サウジアラビア	サウジアラビア	アラブ首長国連邦	アラブ首長国連邦	アラブ首長国連邦
3位	サウジアラビア	インドネシア	インドネシア	アラブ首長国連邦	インドネシア	イラン	イラン	イラン	カタール	ロシア

【牛肉】

	1965	1970	1976	1980	1985	2005	2010	2015
1位	オーストラリア	オーストラリア	アメリカ	オーストラリア	アメリカ	オーストラリア	オーストラリア	オーストラリア
2位	ニュージーランド	ニュージーランド	オーストラリア	アメリカ	オーストラリア	ニュージーランド	アメリカ	アメリカ
3位	アルゼンチン	アメリカ	カナダ	カナダ	デンマーク	メキシコ	ニュージーランド	ニュージーランド

【木材(丸太)】

	1965	1970	1976	1980	1985	2005	2010	2015
1位	フィリピン	アメリカ	アメリカ	アメリカ	マレーシア	アメリカ	アメリカ	アメリカ
2位	アメリカ	フィリピン	マレーシア	インドネシア	アメリカ	ロシア	カナダ	カナダ
3位	マレーシア	ソ連	インドネシア	マレーシア	カナダ	カナダ	ロシア	マレーシア

-考察-

- ・原油…現在中東に頼りすぎており、今後中東で何か災害があったとき、必要な量の原油が輸入できないのではないかと懸念されている。
- ・牛肉…感染症を日本国内に持ち込まないよう輸入禁止の対策をとったため一部の地域からの輸入が激減した。感染症だけでなく感染植物もほかの物資の輸入量に影響しているのではないかと懸念されている。
- ・木材(丸太)…過度な森林伐採により東南アジアの輸出に規制をかけたため、木材を輸入する側には関税引き上げを行うなど、環境問題が大きく関わってくる。

-結論と今後の課題-

国際化が進んでいる現在、輸入だけでなく自分たちが海外に行く際も気を付けなければいけない感染症や、環境問題として重要視されている地球温暖化といったように、過去も現在、そして未来も同じ問題に悩まされることになるだろう。さらに、最近日本で自然災害が多く起こっていることから、必要になる物資の輸入も多くなることが予想される。

しかし、輸入金額と輸入量で上位を占める国が違うことがわかったり、例えば同じ「木材」というくくりでも丸太、合板、製材というような種類があり、それぞれで主要な輸入国が違うことがわかったため、より細かい部分も調べたい。そして、データが不十分だったため、もっと多くの情報を集め、今回研究対象にした三品目以外の輸入品についても研究したり、今後の日本の貿易についてより理解を深めたい。

-謝辞-

ご指導いただいた松井隆幸先生、ありがとうございました。

-原油について気づいたこと-

- ①1980年からアラブ首長国連邦が上位を占めるようになった。
- ②サウジアラビアが常に上位を占めている。
- ③1965年に1位だったクウェートが1970年以降上位からいなくなっている。

-原油輸入の背景-

- ①→日本の原油輸入の大半が中東に依存している。
- ②→中東の最大産油国の一つであり、主要貿易国は米国、日本、EU15カ国、中国、韓国、シンガポール。
- ③→日本経済が発展した一方で大気汚染などの公害問題が生じ、それに対して「公害対策基本法」や「大気汚染防止法」が制定公布され、石油製品の低硫黄化への要請が強まった。その結果、高硫黄原油の輸入する割合は年々大幅に低下した。(低硫黄化することにより人体や自然環境に悪影響を及ぼす有害物質を削減できる。)

-牛肉について気づいたこと-

- ①1970年～1976年の間にニュージーランドが上位からいなくなり、2005年から再び上位を占めるようになった。
- ②1985年～2005年の間にアメリカが減少し、2005年～2010年の間に再びアメリカが増加している。

-牛肉輸入の背景-

- ①→収益性の悪化による規模縮小や他農産物への転換により減少傾向。一方で乳製品需要の高まりから乳用牛の飼育頭数が増加している。
- ②→2003年12月、米国で牛海綿状脳症(BSE)感染牛が発見されたことにより、日本や韓国は米国産牛肉の輸入を禁止した。2005年12月に再び輸入を開始した。

-木材(丸太)について気づいたこと-

- ①1985年～2005年の間にマレーシアとフィリピンが上位からいなくなり、マレーシアは2015年に3位になっている。
- ②2010年からロシアが減少している。

-木材(丸太)輸入の背景-

- ①→2006年に東南アジアの伐採可能な森林資源の減少、森林資源保護・木材加工工業化を目的とした丸太輸出規制などによりマレーシア、フィリピン、インドネシアからの輸入が減少した。マレーシアの3位浮上については、2010年のTPP参加による影響もあるが、急に浮上したわけではなく、輸入量を見ると、ニュージーランドに次いで常に4位を占めていた。
- ②→丸太輸入関税の引き上げにより北洋材丸太の輸入が激減した。

-参考文献-

- ・農林水産省「財務省貿易統計(輸入)」
http://www.maff.go.jp/i/tokei/kouhyou/kokusai/houkoku_yunyu.html
- ・ALS株式会社「日本の貿易の歴史」
<http://alscorp.co.jp/rekishi/>(2018年6月)
- ・農林水産部「オーストラリアにおける農産物の生産・貿易政策の現状」日本貿易復興機構(ジェトロ)、2009年3月
- ・通商産業省『通商白書 各論』財団法人 通商産業調査会版、1967年
- ・財務省貿易統計「日本の原油輸入相手国上位10カ国の推移」
http://www.customs.go.jp/toukei/suii/html/data/y8_2.pdf
- ・『日本国勢図会』各年度版
- ・立花 敏「東南アジアの木材産出地域における 森林開発と木材輸出規制政策」『地域政策研究』(高崎経済大学地域政策学会)第3巻、第1号、2000年7月、49頁～71頁
<http://www1.tcue.ac.jp/home1/c-gakkai/kikanshi/ronbun3-1/tachibana.pdf>
- ・経済産業省「我が国の原油輸入と対中東貿易」
<http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/bunseki/pdf/h18/h4a0606j5.pdf>